

進路だより 6号



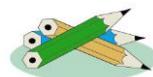
模試は事後反省が最も大事

適切な自己分析と反省学習で 実力をつけていく

文化祭も終了したので、すみやかに生活と学習のリズムを整えなければいけません。夏休み明けには、全学年で、6月末に実施した「7月進研記述模試」の結果が返却されています。さて、返却されてから今日までの時間、あなたは何をしてきましたでしょうか？文化祭の準備で忙しかったとはいえ、現実から目をそらし、結果を放置してしまっている人が少なからずいるのではないのでしょうか。橋生ほどの理性的な人たちならば、それが良くないことであるのは十分認識しているはずですね。

ここで、あらためて、全国模試を受験する目的を確認しておきます。大きく分けて以下の3点です。

- ① 現在の各教科・科目の実力を知る。
- ② 全国(及び各志望校)における自分の位置を知る。
- ③ 次の模試を勉強の目標に設定する。



ゆえに、結果を受け取ったら終わりではありません。結果を分析し、それを基にした復習を行うことで、実力を伸ばすことができます。

1 現在の実力を的確に『自己分析』する

結果を受け取ったら、どんな結果であれ、現実から目をそむけるのを止めて事実を謙虚に受け入れましょう。悪い結果を目にして、ただ落ち込んでいるだけでは、問題は何も解決しません。「今の結果の原因は何か」、「今後、どこをどのように改善すればよいのか」など、しっかり考え、すみやかに行動を起こすべきです。特に3年生については、ただ漠然とした不安に浸っているだけではいけません。残された時間はまだまだたくさんありますから、焦らず1つずつ課題を解決していきましょう。

まず、自分の現在の状況を正しく理解することから始めましょう。模試の結果は、現時点での「実力」と「全国(志望校)での位置」を教えてください。どうしても「偏差値」、「校内順位」、「合否判定」に目が向きがちですが、それだけでは模試の効果は半減してしまいます。以下に示すような観点で、成績結果を活用できるようになりましょう。

3年生はいうに及ばず、1、2年生のうちから、自分自身で現在の実力を的確に自己分析できるようになるべきです。そのうえで、弱点強化に向けた勉強を行っていくのです。

① 『分野別得点率』に注目 自分の弱点を把握

志望校の合否判定だけでなく、各科目の分野(設問)ごとの得点率を確認しましょう。そして、全国平均や同一大志望者の平均に対して、自分がどれだけ優れているのか、劣っているのかをしっかりと把握します。模試の自己分析をしっかり行える人は、つねに自分の苦手分野を把握しているので、速やかに勉強を開始することができるのです。

② 3年生「傾斜配点・試験科目」による合否判定の差を確認 戦略的な『二次出願の組み合わせ』を研究しよう

特に3年生の国公立大志望者に関しては、6月マーク模試と7月記述模試との「ドッキング判定」が出ています。同じような偏差値帯の大学でも、受験科目やその配点によって判定が微妙に差があります。大学ごとに、入試科目や配点はさまざまなので、同じセンター試験の結果でも出願の仕方だけで合否に違いがあることを理解しましょう。自分によって有利な傾斜配点となっている大学を、いくつか探しておくといいでしょう。例えば、以下のように、センター試験の結果や二次試験の科目等に応じた出願校の組み合わせのパターンを、3通り以上、作っておくことを勧めます。

■ センター試験の結果に応じた『二次出願の組み合わせ』の検討

[二次出願の組み合わせの例]

○第1志望 (⇒ センター試験で目標点を越えた場合)

前期日程：A大学 ○○学部 □□学科

後期日程：B大学 ○○学部 ××学科

○第2志望 (⇒ センター試験で目標点を少し下回った場合)

前期日程：B大学 ○○学部 ××学科

後期日程：C大学 ○○学部 △△学科

○第3志望 (⇒ センター試験で目標点を大きく下回った場合)

前期日程：C大学 ○○学部 △△学科

後期日程：D大学 ●●学部 ▲▲学科

(前期日程の難易度ランキングはA大>B大>C大>D大 とする)



■ 公立大の『中期日程』・『独自日程』を有効に活用

昨年度は 中期日程で6名、独自日程で3名が合格

一部の公立大(高崎経済大、長野大、新潟県立大など)で実施している「中期日程」や「独自日程(前・中・後期日程とは別日程で実施し、他の日程と併願可能)」の大学の利用も検討しておくといいでしょう。後期日程の廃止や推薦・AO入試の拡大により、年々、一般入試の定員が減少しています。受験機会を増やす意味でも、これらの日程の入試の利用を検討する価値は大きいと思われます。

■ 国公立大志望者も私立大の併願先を検討

『入学定員の厳格化』の影響で難易度が上昇・要注意!

国公立大志望者であっても、私立大の併願先を検討するのは当然のことです。私立大はどの方式の試験に出願するのかポイントとなります。また、「入学定員の厳格化(⇒合格者数を制限する)」の影響と志願者数の増加により、私立大の難易度が上昇していますので、注意が必要です。

2 次の模試を学習の目標に設定する



今後の模試と考査の日程（9～12月）

[全国模試]

● 3 学年 :

- ① 9月14日(金)・15日(土) 進研・駿台共催 9月マーク模試
- ② 10月 6日(土)・ 7日(日) 全統マーク模試(会場:福島大学)
センター試験の会場となる可能性がある福島大学を使用し、福島市や郡山市等の高校の生徒と一緒に受験する。
- ③ 10月12日(金)・13日(土) 進研・駿台共催 10月記述模試
9月共催マーク模試とのドッキング判定を出す。
- ④ 10月26日(金)・27日(土) 全統記述模試
10月の2つの記述模試の結果は、かなり重要なデータとなる。それぞれを「仮想国公立二次試験」として、1月のセンター試験の自己採点結果とのドッキング判定を行う。そして、このデータを基に、国公立大の二次出願先を決定することになる。3年生は、この模試までに、「二次力(記述力)」を増強することを目標にして勉強してほしい。
- ⑤ 10月下旬～11月上旬 各難関大のオープン模試・実戦模試(希望者)
東北大などの難関大希望者を対象に、各大学の二次試験に対応した模試を受験する。難関大希望者は必ず受験すること。詳細は後日連絡する。
- ⑥ 11月 2日(金)・ 3日(土) 進研・駿台共催 11月マーク模試
- ⑦ 11月30日(金)・12月1日(土) 全統センター試験プレテスト(最後の全国模試)

● 2 学年 : 11月2日(金)・3日(土) 進研記述模試(⇒ここから「5教科型」の開始)

● 1 学年 : 11月3日(土) 進研記述模試(国数英)

[前期期末考査]

9月11日(火)～14日(金)

特に、3年生に関しては、前期までの成績が、3年次の成績として、推薦・AO入試だけでなく、2月までのすべての出願の際の調査書に記載されることになる。

[後期中間考査(3学年は学年末考査)]

11月13日(火)～16日(金)



◆ 今後の国公立大入試の日程(一般入試)

- 9月 5日(水) センター試験出願の仕方について全体指導 ⇒出願書類準備・受験料納入
- 10月1日(月)～10月12日(金) **センター試験出願**
*本校は10/1(月)に全員分をまとめて出願
↓ 12月17日までに「受験票」が届く
- 12月 冬季休業中
三者面談 ⇒ここで「出願先候補」決定 ⇒各自で「願書の取り寄せ」・「宿泊手配」
↓
- 1月19日(土)・20日(日) **センター試験(「一次試験」)**
↓
- 1月21日(月) 自己採点日 ⇒採点結果を分析に出す ⇒3日以内に結果が届く
↓
面談 ⇒担任・保護者・本人で話し合い「二次出願先(前期・後期(中期))」を決定
↓
- 1月28日(月)～2月6日(水) **「二次試験」出願**
*全日程を同時に出願する。出願後の変更は一切できない
↓
- 2月25日(月)～ **「前期日程」試験**
↓
- 3月1日(金)～10日(日) **「前期日程」合格発表**
↓
★前期合格者 3月15日(金)までに入学手続き
↓
★前期不合格者 めげずに後期(中期)日程に向かう!
↓ ○3月8日(木)～ **「中期日程」試験**
↓
- 3月12日(火)～ **「後期日程」試験**
↓
- 3月20日(水)～24日(日) **「後期・中期日程」合格発表**
↓
★後期・中期合格者 3月27日(水)まで入学手続き
*受験した大学が定員に満たさなかった場合、28日以降に「追加合格」の電話連絡が来る可能性がある。毎年、ここで救済される橋生がいる。

